資料１－１

茨城大学
Ibaraki University

ー　教育の質保証 / 向上 と スチューデントサクセスの取組　ー

茨城大学長
太田寛行

中央教育審議会　大学分科会
質向上・質保証システム部会

2025年12月23日（火）
文部科学省

もくじ：

1.教育の質保証の体制　－４階層質保証システム

DP　関わる人　取り組む時期　学修成果　受験生・社会からの姿

2.　受験生（社会）への説明

3.　スチューデントサクセスに向けて
　　学修者本位の教育の取組＝スチューデントサクセス

参考資料

著者：「茨城大学コミットメント」プロジェクト
編者：太田 寛行、嶌田 敏行
出版：2023/04/28

教育の
質保証

「大学教育再生加速プログラム(AP)」
事業期間：2016年度～2019年度　S評価

何もしない大学

DP Webサイトに掲載する形式的な存在

関わる人 認証評価の担当者だけ。ペーパーワークが中心

取り組む時期 受審時期が迫ったら…

学修成果 GPAの数値や単位修得状況に限定
DPと授業設計・評価方法が乖離

受験生・社会からの姿 偏差値（数字）で比較

2020年度～

研究・管理運営を含む内部質保証体制の整備

内部質保証体制に基づく自己点検評価の実施と
エビデンスベースの法人経営

各全学委員会、部局が毎年度のモニタリングとレビューを通じて、諸活動に対して質の保証を行うとともに、全学的な観点から組織的に改善及び向上に取組む。自己点検評価書として毎年度web公開。内部質保証の外部評価も実施。

教育の
質向上

質向上の先を目指して：Student Success
(なりたい自分になる)

DP 教育課程全体に広がり、授業設計・授業改善、学修支援や評価方法まで包括的にDPを組み込み、意識して活用

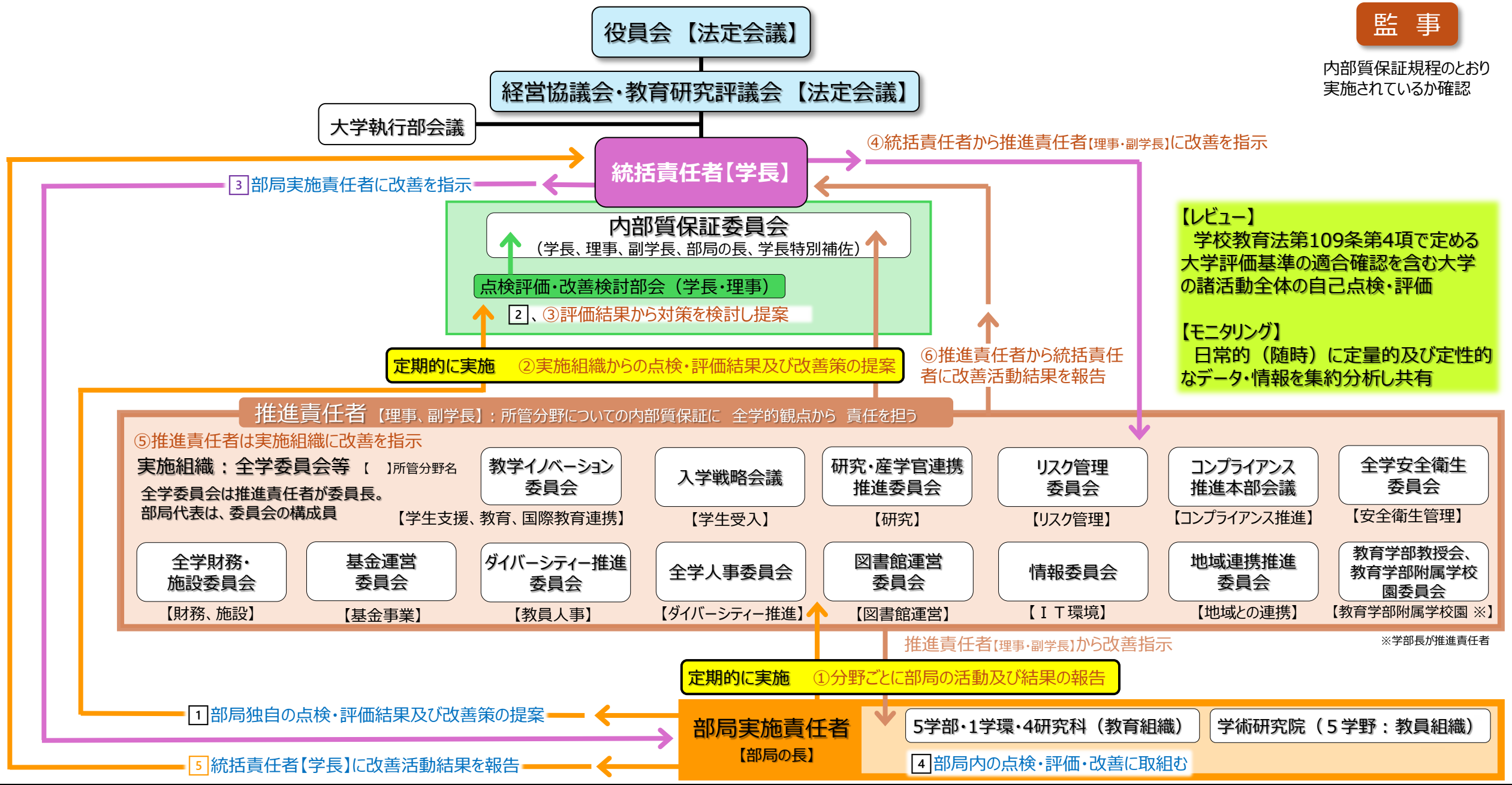
関わる人 内部質保証の枠組みで幅広く教職員が関与して質向上に取組む

取り組む時期 年間を通じて継続的に実施。毎年度モニタリングとレビューを通じて、自己点検評価で持続的な改善へ

学修成果 ポートフォリオやルーブリックを用いて、学生が自分の成長を実感できる仕組み

受験生・社会からの姿 大学の教育力で比較。進学先選びの重要な情報として活用されるよう、分かりやすく発信

参考：国立大学法人茨城大学 の内部質保証体制（2020年度～）



1.教育の質保証の体制　－４階層質保証システム

2016年度「大学教育再生加速プログラム(AP)」 で採択され、S評価を獲得。現在まで発展しながら稼働
採択時タイトル：「４階層質保証システム，並びに地域協働モデルによる卒業時における質保証の取組」

学修成果データを基礎として、①教員個人、②学科・コース等、③学部、④全学という4つの階層により、教員個人及び教育組織の教育活動の点検・検証・教育改善を促す質保証のシステム

全学
大学教育の有効性検証：
（≒認証評価の基準・観点を活用◎）
現状把握と制度設計、リソース配分
← 基礎データセット（主要数値、ファクトブック、認証評価等対応）

報告　調整

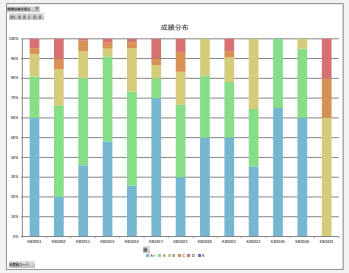
学部等
学位プログラムの有効性検証：
（≒認証評価の基準・観点を活用○）
学科等FDミーティングの結果の共有と組織的対応、FD研修会実施
← 各種学生調査データの定期的配信、データリクエスト対応、基礎データセット（認証評価等対応）

学科等
教育プログラムでの有効性検証：
（≒認証評価の基準・観点を活用△）
DPに照らした学習成果の測定とその結果に基づく現状把握。CP、APの点検。
← 各種学生調査データの定期的配信、データリクエスト対応

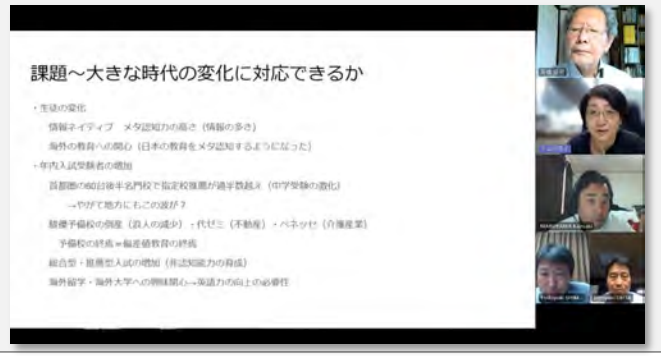
教員
教員ごとの授業や
教育改善状況の定期的点検
← 授業データ、アンケートデータ

IR

取組①　各種データを見ながら、教員間で議論



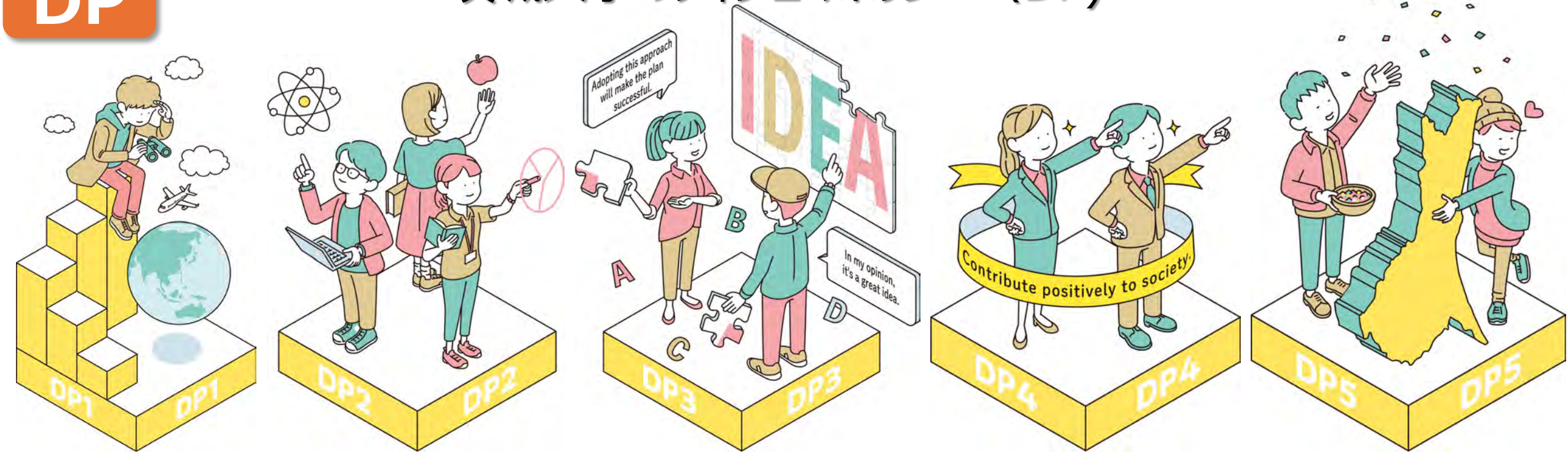
取組②　全学・学部FD、ステークホルダーも含めた学部アドバイザリーボードで意見交換



- 教育データをトップダウン的に活用するのではなく、現場の主体的な動きを導くように活用する**ボトムアップを重視した内部質保証システム**
- 大学本部側からは、IRからの教育改善情報の学内流通を促し、**データの活用方法は現場に任せ干渉しないという姿勢**

DP

茨城大学のディプロマポリシー（DP）



DP1:（世界の俯瞰的理解） 自然環境、国際社会、人間と多様な文化に対する幅広い知識と俯瞰的な理解
DP2:（専門分野の学力） 専門職業人としての知識・技能及び専門分野における十分な見識
DP3:（課題解決能力・コミュニケーション力） グローバル化が進む地域や職域において、多様な人々と協働して課題解決していくための思考力・判断力・表現力(DP3a)、コミュニケーション力(DP3b)、及び実践的英語能力(DP3c)
DP4:（社会人としての姿勢） 社会の持続的な発展に貢献できる職業人としての意欲と倫理観、主体性
DP5:（地域活性化志向） 茨城をはじめとする地域の活性化に自ら進んで取り組み、貢献する積極性

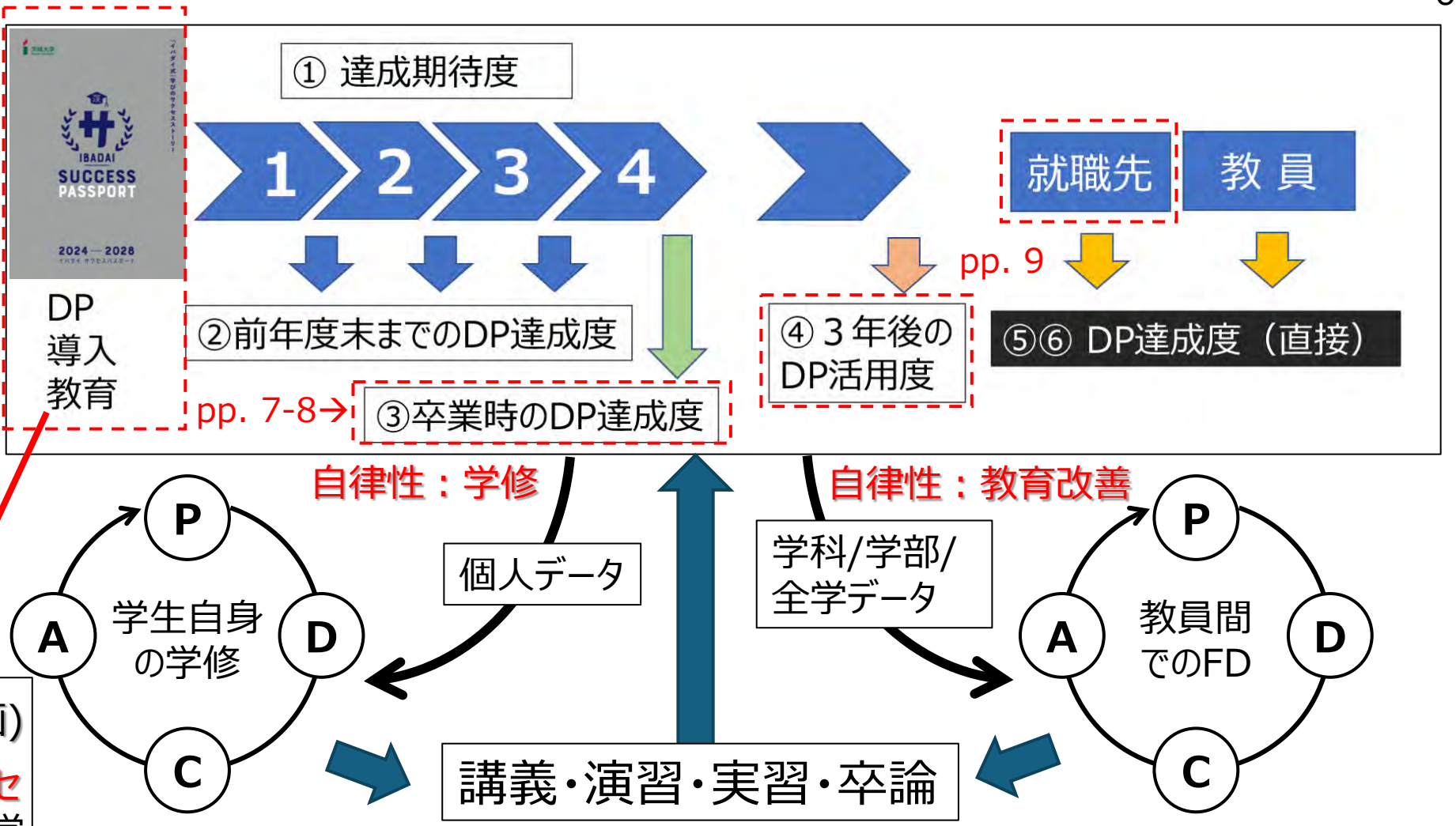
入学定員（合計　1,555）：人文社会科学部　360；教育学部　275；理学部　205；工学部　515；
農学部　160；地域未来共創学環（2024年度～）　40

関わる人
取り組む時期

①入学前研修(動画)

②フレッシュマン・サクセス・セレモニー：入学式直後に先輩学生が新入生にDPについて語る

③大学入門ゼミ

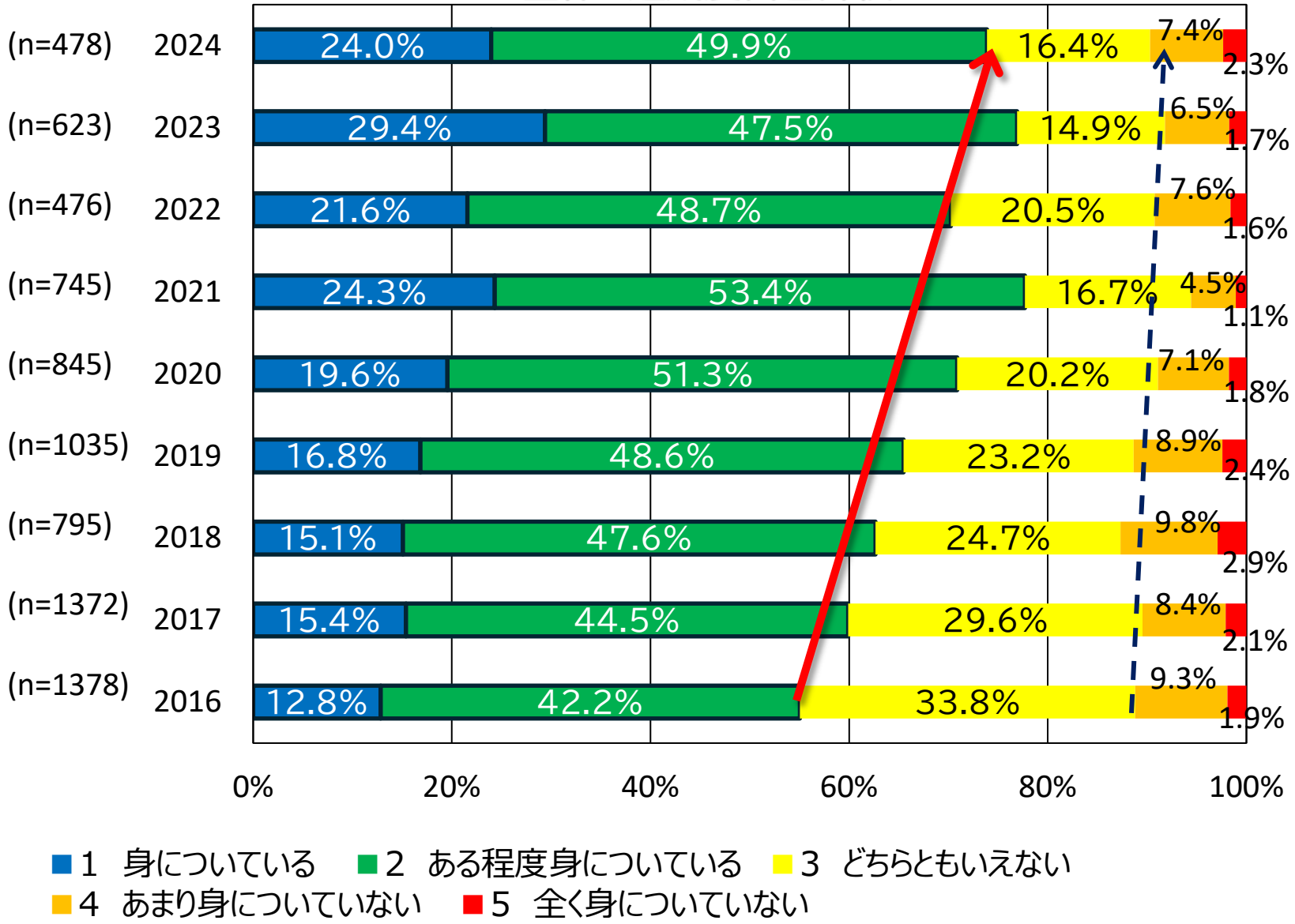


茨城大学設立時の教育方針：<u>注入他律の教育を排し</u>、自由啓発主義に則り、全学、各教科目の指導教員、厚生補導関係の職員等は、常に提携して教室内外に於ける学生の自発的自治活動を奨励し、常に学生の個性発見に留意し、**<u>学生自らの力によって天賦の能力を啓発するように導く</u>**ことに努める。

学修成果

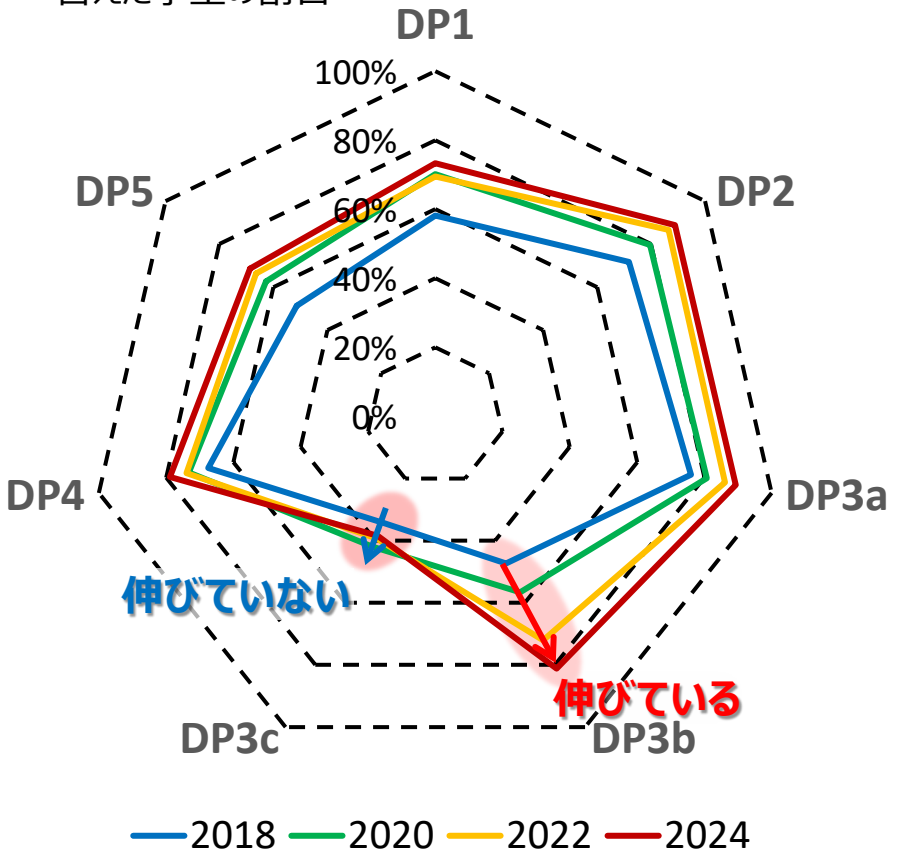
卒業時のDP達成度（自己評価）＜全学レベル

DP全体の達成度自己評価



各DP要素・能力の達成度自己評価

「1 身についている」+「2 ある程度身についている」と答えた学生の割合



DP1:（世界の俯瞰的理解）／DP2:（専門分野の学力）／DP3:（課題解決能力・コミュニケーション力）課題解決力(DP3a)、コミュニケーション力(DP3b)、及び実践的英語能力(DP3c)／**DP4:（社会人としての姿勢）／DP5:（地域活性化志向）**

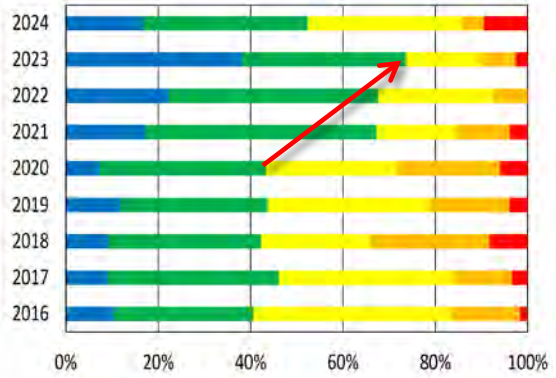
DP-3bとDP-3cの卒業時の自己達成度＜学部レベル

・コミュニケーション力(DP-3b)は2020年度以降に上昇傾向
（理学部は2024年度に下がる） ＜赤実線矢印

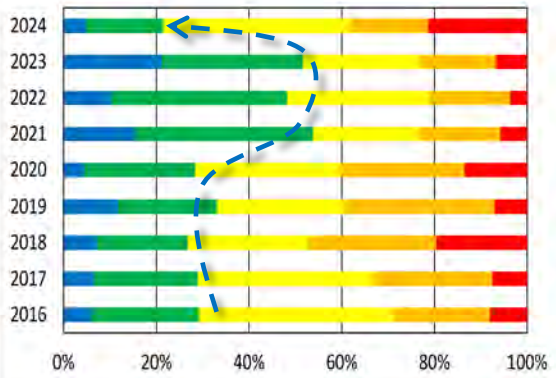
・実践的英語力(DP-3c)は、調査開始時（2016年度）と比べれば、上昇傾向にあるが、伸びない
（2024年度は下がる） ＜青点線矢印

■1 身についている ■2 ある程度身についている ■3 どちらともいえない
■4 あまり身についていない ■5 全く身についていない

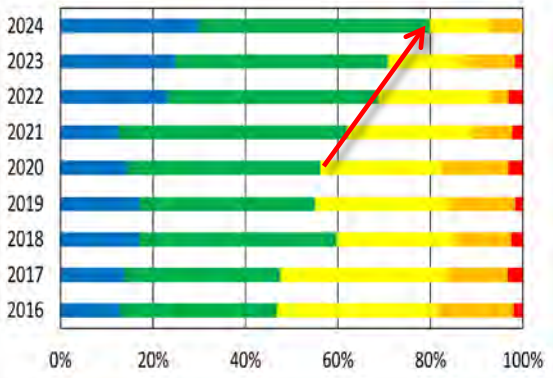
理学部 DP-3b



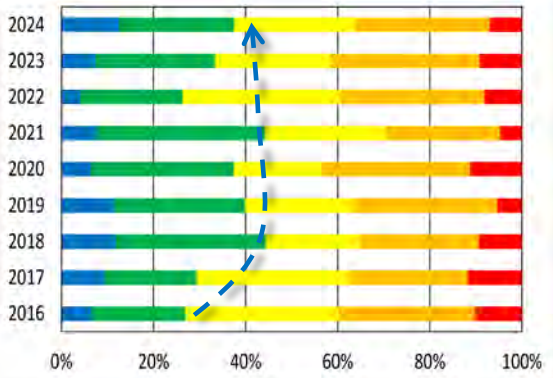
DP-3c



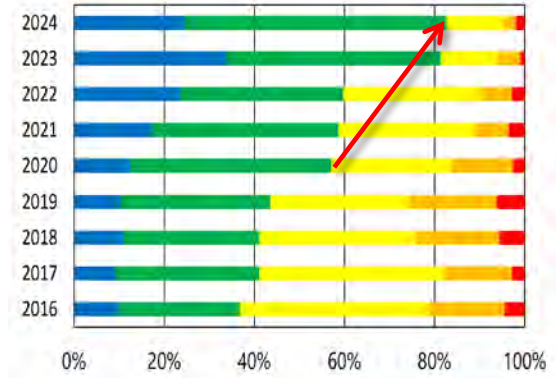
人文社会科学部 DP-3b



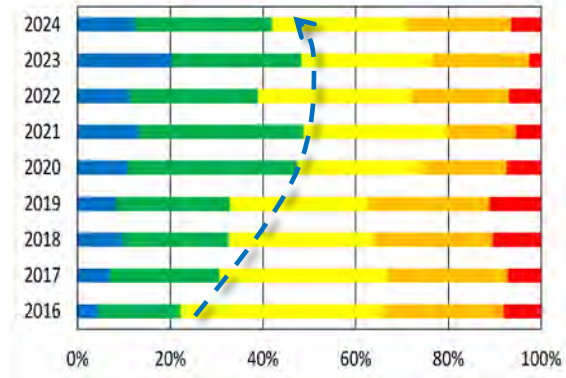
DP-3c



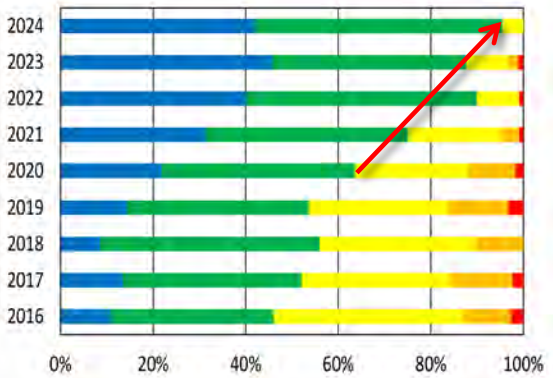
工学部 DP-3b



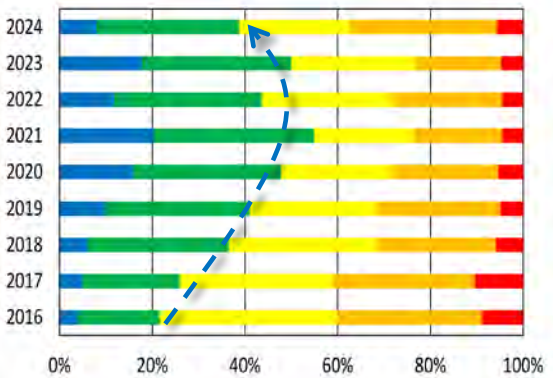
DP-3c



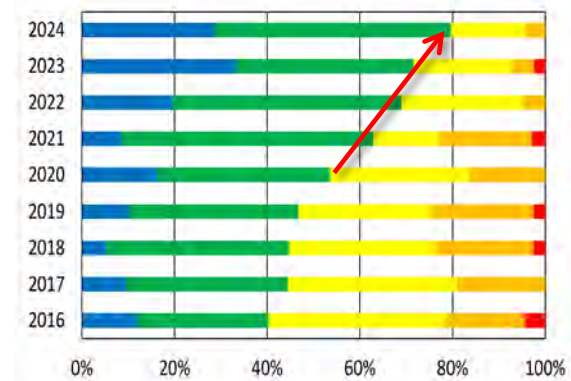
教育学部 DP-3b



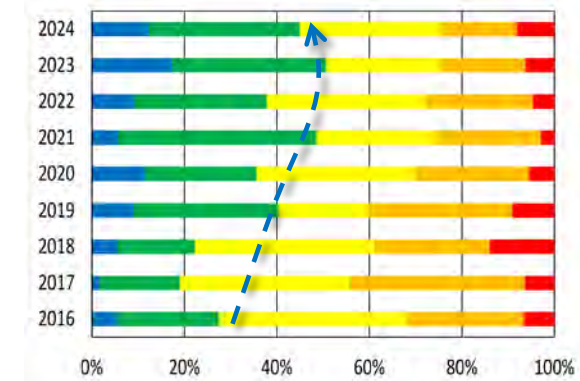
DP-3c



農学部 DP-3b



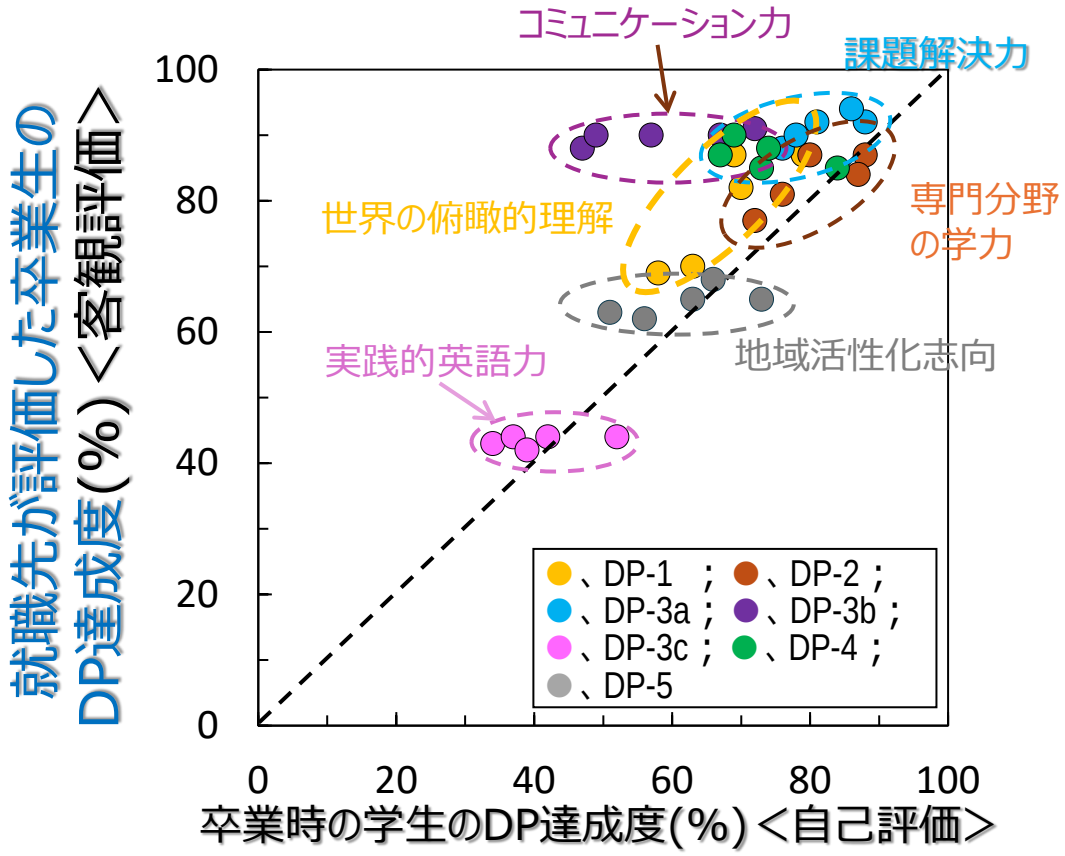
DP-3c



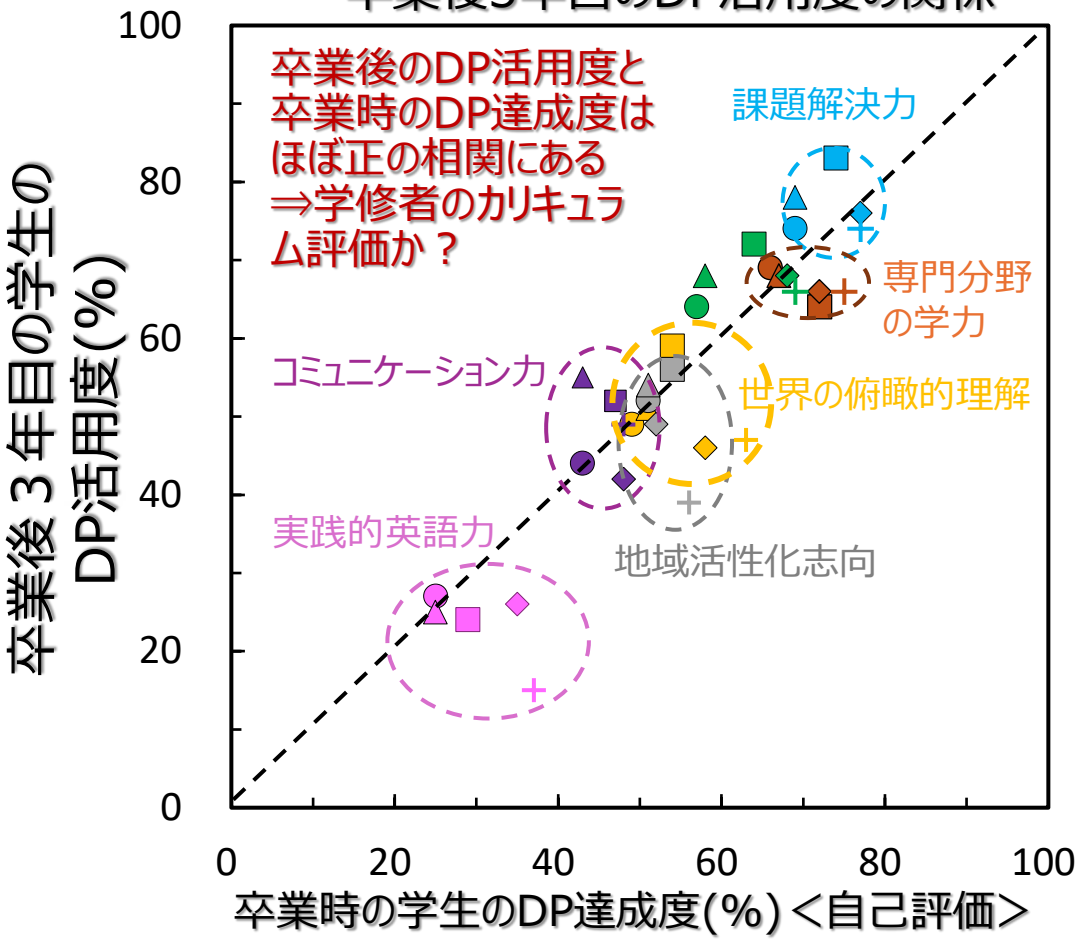
学修成果

就職先の評価
↓　卒業生の活用度→

卒業時の学生のDP達成度と就職先が評価した卒業生のDP達成度（2018～2022年度の調査データ）



卒業時の学生のDP達成度と
卒業後3年目のDP活用度の関係



活用度(縦軸)/達成度(横軸)	DP-1	DP-2	DP-3a	DP-3b	DP-3c	DP-4	DP-5
2018/2015	●	●	●	●	●	●	●
2019/2016	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
2020/2017	■	■	■	■	■	■	■
2021/2018	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
2022/2019	+	+	+	+	+	+	+

この卒業世代は、社会に出てコロナ禍に遭ったからか？

就職先の本学卒業生評価は、卒業世代が変わっても、
①課題解決力とコミュニケーション力が高く、社会人としての姿勢もある、
②実践的英語力で期待できるのは、約半分弱の学生、
③地域活性化志向は概ね身に付けている。

DP-1,-3,-5の達成度のアップに向けて： 学部横断プログラムの導入、2019年度～

５つの茨城大学型基盤学力（ディプロマポリシー DP）

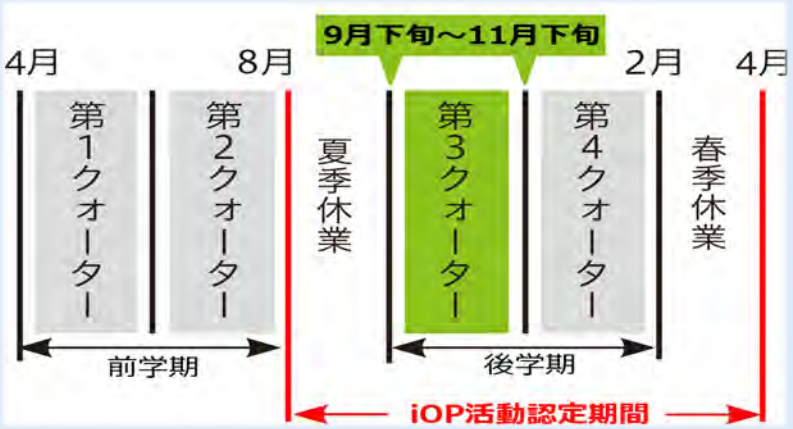
1. 世界の俯瞰的理解
2. 専門分野の学力
3. 課題解決能力・コミュニケーション力
4. 社会人としての姿勢
5. 地域活性化志向

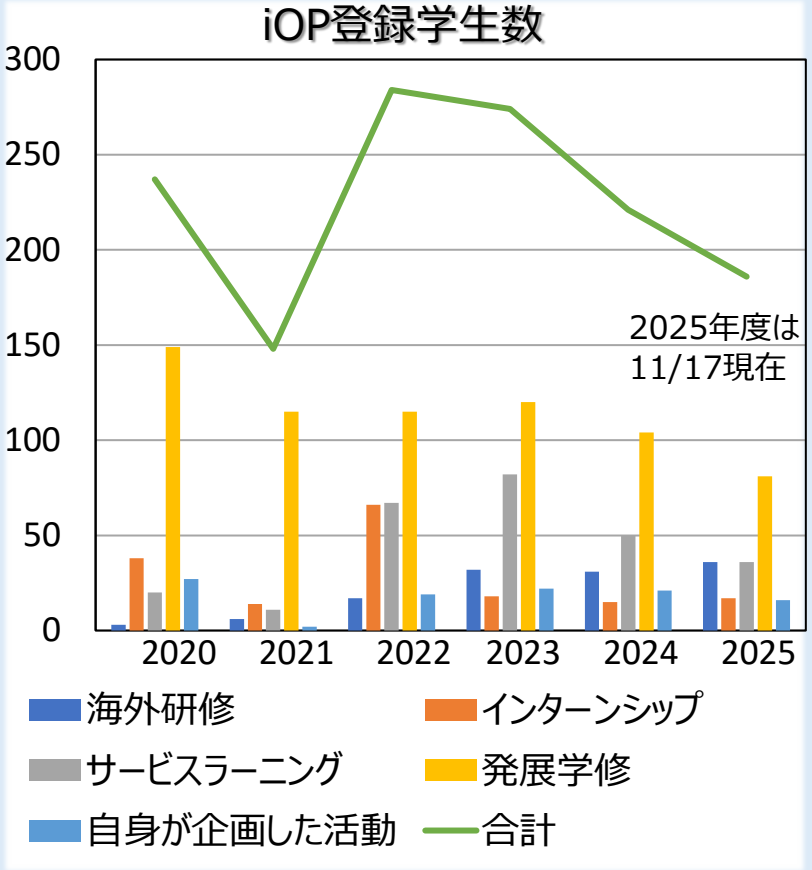
1年生 学問分野の全体像に関わる入門的な知識 → **2年生** 学問分野のより詳細な知識と研究方法 → **3年生** 実験やフィールドワーク → **4年生** 卒業研究

自分で選ぶ

- 基盤教育
- 専門教育
- プラスIプログラム
- 準備期間 / iOP

学部３年次の第３クォーター（9月～11月）を「iOP （internship Off-campus Program）クォーター」と名付け、原則的に必修科目を開講せず、特に学外における主体的な学びを推進。





プラス-I-プログラム、2024年度～

全学部の学生を対象として広く開講し、社会の変化やトピック、地域のニーズなどを踏まえ、学際的、文理横断的な内容として、各プログラムは合計12～26単位の授業科目で構成

- グローバルコミュニケーションプログラム（GCP）
- 地域志向教育プログラム
- サステイナビリティ学教育プログラム
- 数理・データサイエンス・AI教育プログラム
- アントレプレナーシップ教育プログラム
- 日本語教員養成プログラム

受験生・社会からの姿

進学先選びの重要な情報として活用されるよう、
分かりやすく発信

2. 受験生（社会）への説明

大学での「学び」って？

扉1 世界の見取り図をもとう ←DP-1

今はいろいろな教科の勉強をしていても、ひとつひとつがバラバラに見えるかも知れません。幅広い知識同士のつながりを実感するには、世界を俯瞰的に眺める視点をもつことがとても大切です。大学で文系・理系といった区分にとらわれずに学びを広げ、さらに深めることで、自分なりの世界の見取り図ができてきます。

扉2 学問を自分にインストールしよう ←DP-2

人類が古来から観察し、気付き、考え、議論をし、書き残されてきたことが、歴史の試練に耐え、学問として受け継がれてきました。その歴史に身を置き、自分の中に学問をインストールし、自分自身や他者と絶え間ない対話をすること。その土台の上に、新しい景色が見えてきます。

扉3 幅広い他者と出会おう ←DP-3

大学は世界中のいろんな人たちが集まり、学問という世界共通の言葉でつながれる場所です。多様性は世界の進化のエネルギー源。授業や課外活動を通じて、自分の世界を広げてくれるような他者ときっと出会えるはず。ぜひ積極的にいろいろな仲間とつながり、語り合ってください。

扉4 課題の当事者になろう ←DP-4

自分の身近な生活圏から、果ては地球・宇宙レベルまで、私たちはさまざまな課題に直面しています。ときにはその課題の現場に身を置いて、自分ゴトとして向き合い、小さくても良いからアクションを起こしてみることが大切です。自らの働きかけに対して跳ね返ってくるものから、きっとたくさんのことを学べます。

扉5 社会へ問いかけよう ←DP-5

学問はオープンなものです。あなたの自分ゴトから出発して見つけたこと、考えたことは、世界中の人たちと共有することで、社会ゴトになり、学問の新たな１ページとなります。するとまた、新たなメッセージが世界中からあなたに届くはず。あなた自身を社会へひらき、問いかけてみてください。

高校訪問で語ること

（高校生の皆さんへの質問）：

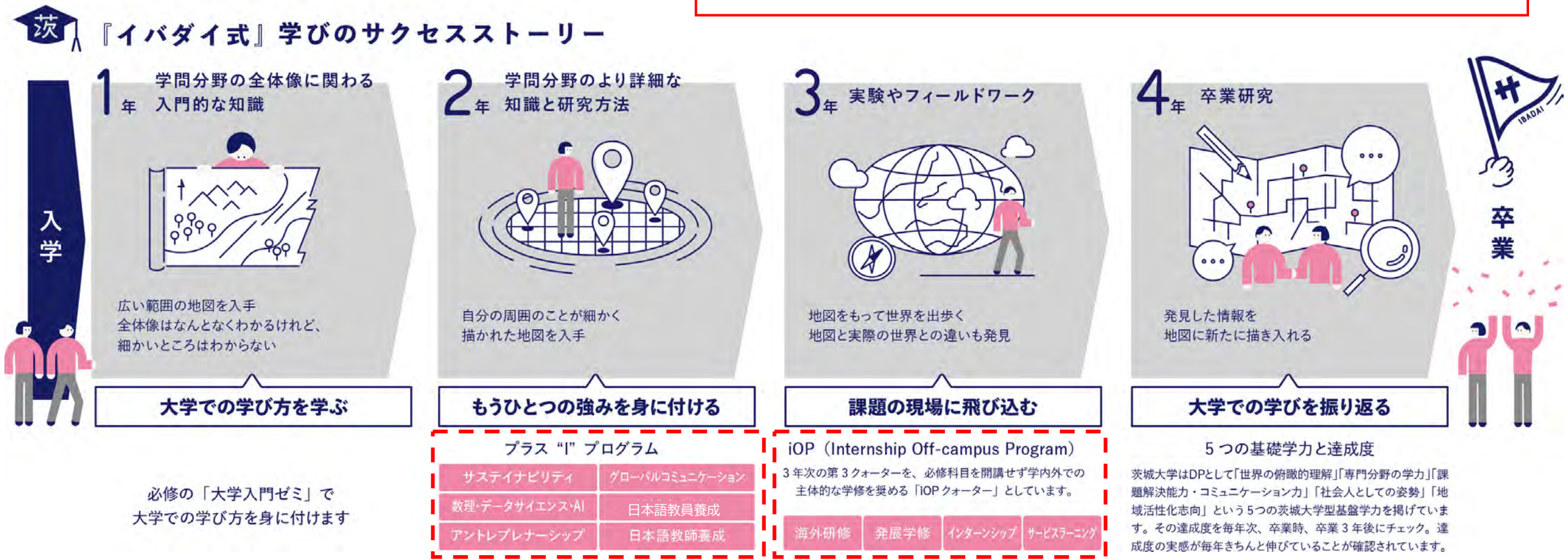
アクティブ・ラーニングの「ラーニング」(learning)という単語の翻訳は、次の3つのどれだと思いますか？

1．学習；2．勉強；3．学び

『1．学習』は誤訳ではないが、正解とは言えず、『2．勉強』は明らかに誤訳であり、『3．学び』が原義に近い翻訳である。

『勉強』の本来の意味は『無理すること』であり、『無理して学ぶ』という意味で使われるようになった。

「学び」とは、対象世界との対話（「**世界づくり**」）、他者との対話（「**仲間づくり**」）、自己との対話（「**自分づくり**」）の三つが統合された「対話的実践」　　佐藤 学（教育学者）



3. スチューデントサクセス（“なりたい自分になる”）に向けて：「学生が，自分の将来を固定的に捉えることなく，幅広く将来の選択肢を考える傾向にあると積極的に評価することもできるが，その反面，**学生が心に悩みを持つ機会を増大させている**という側面もある」（廣中レポート、2004年6月）

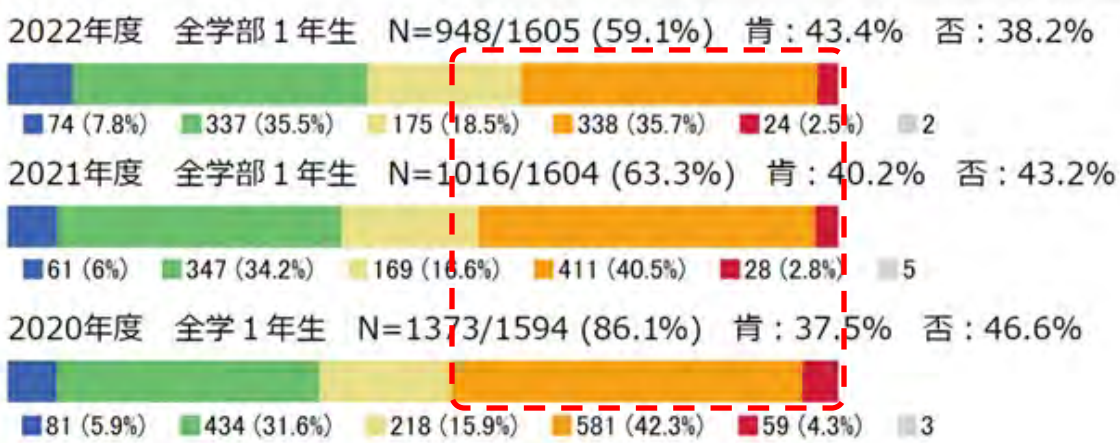
茨城大学1年次生のアンケート調査

設問：大学入学後に悩みを持ったかどうか、カテゴリごとにもっともあてはまる項目を選択してください。

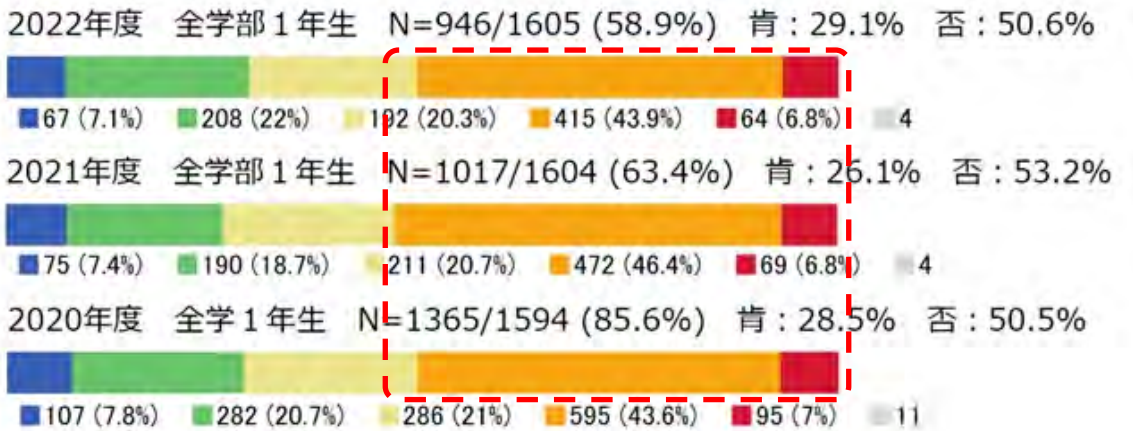
★約半数の学生は「将来に関すること」で悩みを持っている

(1) 全く悩んでいない
(2) あまり悩んでいない
(3) どちらでもない
(4) 少し悩んでいる
(5) 大きな悩みがある
無回答

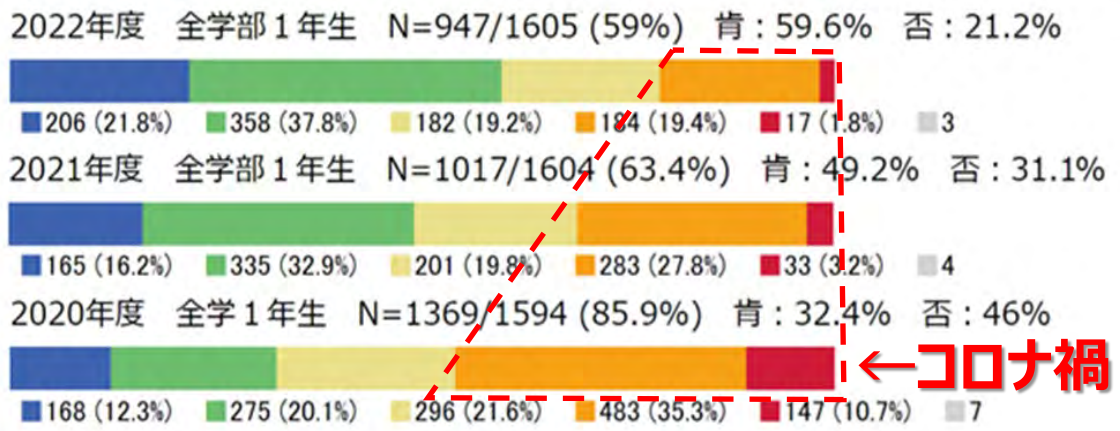
学 業



将来に関すること



交友関係



「～たくさん失敗してたくさん悩んで、自分が将来どうありたいかとか、何をしていきたいか、どんな職業だったら自分に誇らしく生きられるか、そういうことをたくさん悩んでほしいと思います。～」（農学部4年次生S君）

4年次生が新入生に語ったこと@2024フレッシュマン・サクセス・セレモニー

「私は入学したてのとき、正直、本当にやる気がありませんでした。茨城大学が第一志望ではなくて受験で思うようにいかなかったことを結構引きずってました。
1年生のときは本当に勉強しなかったし成績も良くなくて、周りに流されながらなんとなく授業を受けていました。そのことを後悔していて、だからこそみなさんにそれを伝えたくて、今日ここにきました。

一番大事なのはどこで過ごすかではなくて、与えられた場所であったりとか自分が決めた場所、この茨城大学でみなさんがどのように行動していくか。本当にそれだけが大事なことなんじゃないかなと思いますし、自分はもっと早く知りたかったなと思います。留学がひとつのきっかけではあったんですけど、最近ようやく気付くことができました。

みなさんにはこの茨城大学でたくさんいろんな挑戦をしてほしいと思います。たくさん失敗してたくさん悩んで、自分が将来どうありたいかとか、何をしていきたいか、どんな職業だったら自分に誇らしく生きられるか、そういうことをたくさん悩んでほしいと思います。大学生は人生の夏休みといわれるように、本当に自由な時間が多いです。だからこそじっくり考えられる時期でもあるし、社会人としての一歩も意識できる、そういう時期だと僕は思っています。

自分も今、みなさんと同じ学生ですので、必死に悩んで考えている、そんな時期です。
困ったことがあったら悩まずに誰かに相談してください。茨城大学には熱心に話を聞いてくださる先生方がたくさんいます。本当にすばらしい大学だなと思っています。みなさんの大学生活がより良いものになるよう心から願っております。改めて入学おめでとうございます」

学修者本位の教育の取組 ＝ スチューデントサクセス

学生 将来や学業に対する多様な思いや悩み

大学 様々な仕掛けを、意欲ある学生だけではなく、すべての学生が主体的に活用できるように

➡ **学生一人ひとりに向き合い、学生の「サクセス」＝「なりたい自分になること」をサポートすることを教育の柱に**

IBADAI SUCCESS

2024年度から **スチューデントサクセス** の取組を開始

学生による自発的な学修、学生自身による学修改善を通して、学生一人ひとり異なるサクセスに向けた「確かな成長の実感」「充実感」を持った学生生活を送ることを大学としてサポート

➡ **「学生中心の大学」**へ　※「大学における学生生活の充実方策について」（2000年）で掲げられた理念の実質化へ

6つの視点による支援

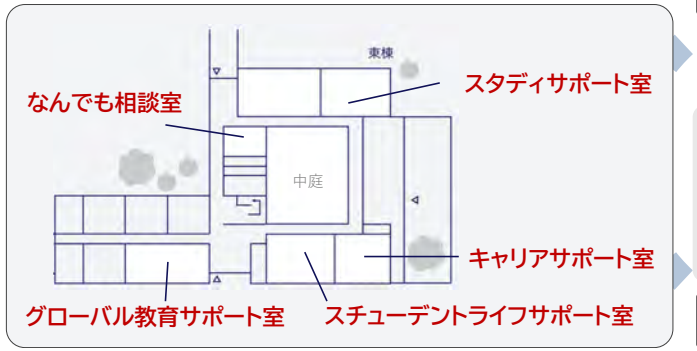
学生のサクセスのために必要な6つの視点をサポートのキーワードとして学内で展開

- **FS** フレッシュマン・サクセス FRESHMAN SUCCESS — まずはなんでも相談
- **AS** アカデミック・サポート ACADEMIC SUPPORT — 大学での学び方を知る
- **SS** スタディ・サクセス STUDY SUCCESS — 主体的な学修に伴走
- **LS** ライフ・スマート LIFE SMART — 心身・経済の不安に
- **CD** キャリア・デザイン CAREER DESIGN — 次のステップに向けて
- **SA** スタディ・アウェイ STUDY AWAY — 学内外の現場で学ぶ

学生窓口機能の強化

教職協働、キャンパス内の学務系をワンフロア化、DXの活用により、One-Stop、One-on-oneを目指す

水戸キャンパス　共通教育棟の１階



日立キャンパス

常時オンラインで接続
ビデオ通話による相談

- 履修に関すること
- 学生生活に関すること
- 進路・就職に関すること
- 留学・国際交流に関すること

阿見キャンパス

A.W. Astin (Student Involvement Theory, 1984)
「学生関与理論」

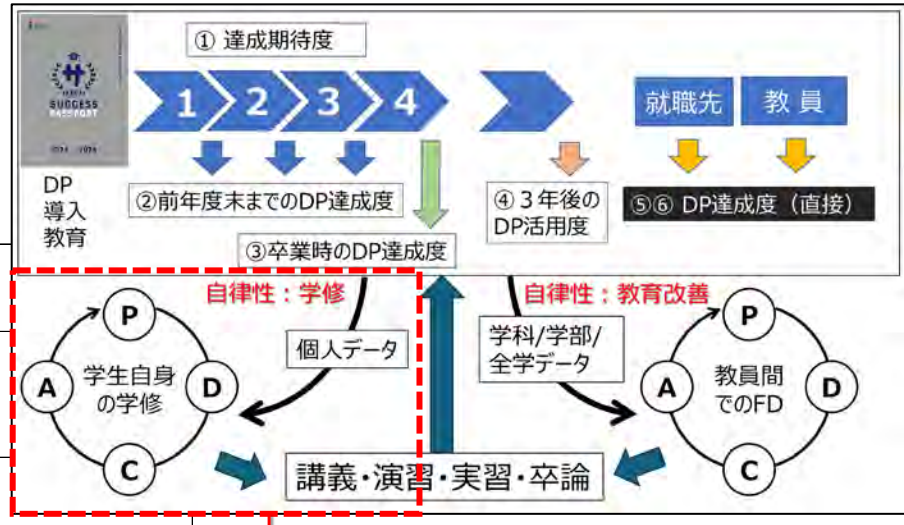
Alexander Astin's theory of Student Involvement explains how desirable outcomes for institutions of higher education are viewed in relation to how students change and develop as a result of being involved co-curricularly. The core concepts of the theory are composed of three elements. The first, a student's "inputs" such as their demographics, their background, and any previous experiences. The second is the student's "environment", which accounts for all of the experiences a student would have during college. Lastly, there are "outcomes" which cover a student's characteristics, knowledge, attitudes, beliefs, and values that exist after a student has graduated college.

Astinの理論は、学生が教育課程と密接に関連する課外活動への参加によってどのように変化し、成長するかという観点に立っている。⇒学生の時間も大学の資源として扱う。

From: https://spartanexperiences.msu.edu/rso-s/Theories.pdf

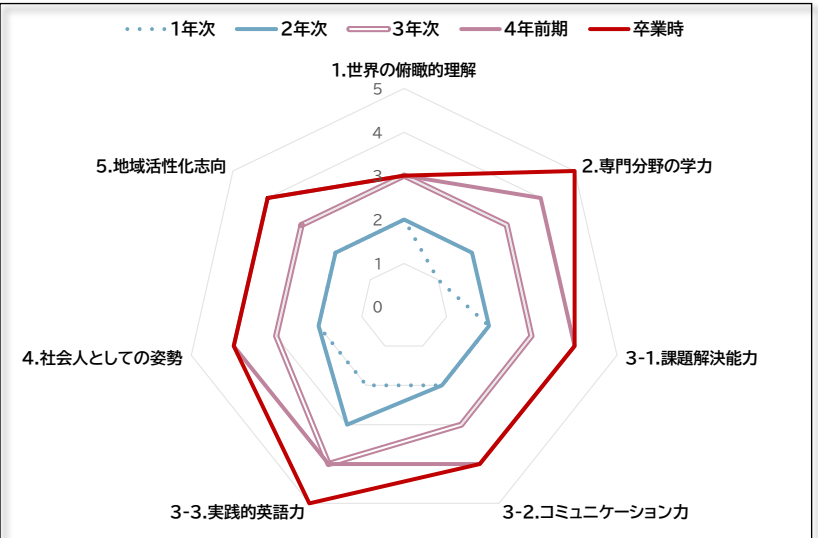
サクセスに向けて：DPルーブリックとポートフォリオ

なりたい自分と現時点の立ち位置について、DPをもとにした客観的な評価指標（DPルーブリック）を中心とした「振り返り」「目標設定」を行えるポートフォリオを導入



学生自身のPDCA

◆ 振り返りの様式



「DP達成度の自己評価」の結果をレーダーチャートで表示

４年後や将来のなりたい自分

4年後・将来のなりたい自分を、入学当初に考える

なりたい自分に向けた目標とその振り返り

１年前期

目標	学期ごとに、目標設定、振り返りを実施
振り返り	

１年後期

目標	
振り返り	

1年後期に1年前期分の自己評価を実施

◆ DPルーブリック ※令和7年度入学者からすべての学生が実施

	応用のレベル（キャップストーン）	実用のレベル （マイルストーン）		基礎のレベル（ベンチマーク）	初期のレベル
	5	4	3	2	1
1.世界の俯瞰的理解	**複数の、または相反する文化的、歴史的、学問領域的立場から、自然や社会のシステムにおける複雑な問題に対する、多様な視点を評価し適用することができる。**	**自然や社会のシステムの理解において、他の文化的、歴史的、学問領域的視点を統合することができる。**	**自然や社会のシステムの理解において、他の文化的、歴史的、学問領域的視点を分析することができる。**	**自然や社会のシステムの理解において、他の文化的、歴史的、学問領域的視点を説明することができる。**	**自身の文化的、歴史的、学問的領域立場を踏まえ、複数の視点を確認することができる。**
	レベル4までの実績に加え、上記の水準の正課・正課外活動（自主的に企画したiOP活動など）での具体的な成果。	関連するプラスＩプログラムの修了。自主的に企画したiOP活動の実施など正課外での同等の活動実績等。	関連するプラスIプログラムのコア科目すべてと関連科目2単位以上の修得。関連する大学提供のiOP活動の実施など正課外での同等の体験。	基盤教育の履修基準に示された単位数を概ね修得。	—
2.専門分野の学力	**専門分野に関する知識・技能が十分身についており、自ら立てた新たな課題にそれらの能力を適用できる。**	**専門分野に関する知識・技能が身についており、教員の指導のもと調査・研究活動に取り組むことができる。**	**専門分野に関する知識・技能がある程度身についており、その分野の知識体系の意味をわかりやすく説明できる。**	**専門分野に関する知識・技能の基礎が身についており、関連する情報を自力で収集し、学ぶことができる。**	**専門分野の概要を理解している。**
	卒業研究等を一定の水準以上で達成。	卒業に必要な授業科目を概ね修得し、卒業研究等を実施できる状態（卒業研究等の成果が一定の水準に及ばない段階を含む）。	主要授業科目を概ね修得。	専門教育のうち基礎的な授業科目を修得。	—

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	卒業時

おわりに：“スチューデントサクセス” を通して築きたい 「対話と承認の場」

禹と沼尻の著作、「〈一人前〉と戦後社会―対等を求めて」（岩波新書、2024）の中で、「日本の若者はなぜ自分の固有の価値を尊ばないのか、すなわち自己肯定感の低さの理由として、“人間の尊厳”という意識がもともと弱いうえに、自らの労働や活動を媒介として、自分を社会的に承認してもらう機会が減っているからだ」という論点があります。

その“自分を社会的に承認してもらう機会”とは、学生が社会と接する時であり、その最も重要なものは「就職活動（就活）」だと思います。そして、彼らにとって「内定」をもらうことが「社会が自分の価値を認めてくれた」ことになるのでしょう。しかし、「自分の価値を認めてくれる機会」は「就活」だけでいいのでしょうか？

大学の意義は、学業、研究、サークル活動、その他の様々な場を通して、そこで仲間をつくることを通じて、自分の価値を考え、自分を磨く機会を提供することだと思います。どんな時代になっても、争いや戦争が無くならない辛い世の中が想定されますが、明るい未来を見据えて、自分の存在や生き方を確認できるのが大学だと思います。

From:太田寛行(2025)「茨城大学のスチューデントサクセス」、茨城大学大学教育論叢 大学教育研究　第9号　茨城大学大学教育論叢

私が日々、多くの学生や若者と接していて強く感じるのは、彼らに共通する二つの心の動きです。それは「承認されたい気持ち」と「つながりたい思い」です。

＜中略＞

大学の役割は、単に知識や技術を伝達することにとどまりません。現代の学生が抱える不安や葛藤に寄り添い、彼らが自分の問いを見つけ、仲間と共に学び合える場をつくることこそが重要です。私は学生と日々接する中で、「授業内容そのものよりも、安心して意見を言えた経験が自分を変えた」と語る声を多く聞きます。

＜中略＞

未来を生きる若者を育てるという大学の使命は、知識の習得以上に、安心と挑戦の両立を支えることにあるのです。

大学への提言・五か条

1. 対話の場を日常に
2. 承認が挑戦を育む
3. 学生の問いを尊重
4. 地域と共に学ぶ場
5. 就職より生き方支援

From: 森 吉弘(2025)「現代の学生・若者の姿に関する考察」、大学マネジメント Vol. 21, No. 8, 36-42.